

高瀬神社 社報

越中一宮



第65号

越中高瀬神社
一宮

令和2年4月1日

<https://www.takase.or.jp/> 撮影：南部スタジオ

困難を乗り越えるために

宮司 藤井 秀嗣

春祭りが始まり、諸々の活動が活発になるうとしている矢先に新型コロナウイルスの世界的流行がおこり、現在も国民生活に大きな影響を及ぼしています。テレビや新聞などマスコミ、また国会では政府の対応が不十分だと騒いでいます。どのような状況に、また、治療できるのか、確実な方法がはつきりしない状況において不安を煽るような発言や報道はいかなるものでしょう。

協力して対策を進めてほしいものです。

また、経済活動が停滞している現在、政府の対策が示されましたが、いつも「国は何をしてくれるのですか」、「支給金額はいくらですか」という要求ばかり。もう一つのことしか考えていないように感じます。今回のような非常時には、私たち国民も我慢できることは我慢して、国が何をしてくれるのかという前に、国民として自分は何をなすべきなのかを考えなければいけないと思います。

一生懸命に感染防止対策や治療に向き合っている人たちがいるわけですから、国民あげて感染拡大防止と早期終息という目的に向かって努力するよう発言、発信するべきではないでしょうか。閣僚の失言や失態がないか、粗探しばかりせず、

今日、豊かで快適な生活をしていますが、ひとたび災害などが起こると、この生活も簡単に崩壊してしまいます。近年、度々起こる災害によってそれを

経験してきた私たちですが、時と共に忘れてしまいがちです。また、直接の被害者でない場合、他人事として受け止めてきたのではないのでしょうか。今般の新型コロナウイルスの流行は、世界中で、国内全域で感染者が続出しています。これまでにない身近で切実な事態となっていることに鑑みても個人として最低限の責任（予防対策）を果たさなければなりません。

台風や大雨、地震を起こさせないことなど、人間の手に負えないことです。それゆえに、古来、津々浦々の神社において、氏子が一体となり、自然災害や疫病などが発生しないよう、村里の安全を祈るお祭りが行われてきました。人間の力でできることは限られています。今回も全国の神社で早期終息を祈願するお祭が奉仕されています。昔から「苦しい時の神頼み」と

いわれますが、神様に祈願すればすぐに願いが叶うというものではなく、成就のための精進が大切です。いまは国民が一致団結して終息への努力を重ねつつ、神様に祈りを捧げることが肝心なのではないでしょうか。

高瀬神社では一日も早く終息するよう毎朝の日供祭（神様にお食事をお供えする祭）に合わせて祈願するとともに、参拝者の皆さんにもご自分のお願いに付け加えて、早期終息を祈願していただくようご案内しています。

現段階では終わりの見えない戦いとなっていますが、大神様の御加護をいただいて、この難局を無事に乗り越えられるよう日々お祈りして参ります。ご崇敬の皆さんもどうぞ一緒にご祈念くださいますようお願い致します。

祭事暦

令和二年 初詣

令和最初のお正月は、例年に比べ暖かい日となり、県内外より約十九万人の参拝者が訪れました。

御祈祷では、本年より「大國さまの宝願小槌」による「小槌の儀」を行い、多くの方々が大國様の福をいただこうとお参りされ、英霊をお祀りする功霊殿にも多くのご参拝を賜りました。

奉仕巫女さんたちが、明るい笑顔で参拝者をお迎えし、



大神様に代って皆様に福をお頒ちしました。

本年も関係各位のご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。



節分祭

二月三日午後三時より「節分祭」を斎行しました。この時期は、例年「節分寒波」に見舞われますが、本年は暖かい気候のもと、「節分」を迎えることができました。

祭典では祝詞奏上、神楽「剣の舞」奉奏に続いて、「小槌の儀」を行いました。祭典後、「福は内、鬼は外」の掛け声とともに神職と巫女、石岡敬夫責任役員が、

「福豆」を撒きました。お参りされた方々は、両手をいっぱい広げて、熱心に豆を集め、ご家庭の除災招福を祈念されていました。



紀元節祭

皇紀二六八〇年となる本年、二月十一日午前十時より「紀元節祭」を斎行し、神武天皇による建国のご偉業の顕彰と、国の繁栄、世界平和を祈念しました。本年も福野松風会（大聖寺弘会長）会員が建国の日を奉祝し、吟詠を奉納しました。

奉納曲

【御本社】

「海に浮かぶ」王陽明

「春日の作」新井白石

「生田に宿す」管 茶山

「山行同士に示す」草場佩川

【功霊殿】

「新正口号」武田信玄

「壇の浦夜泊」木下犀潭



吟詠奉納



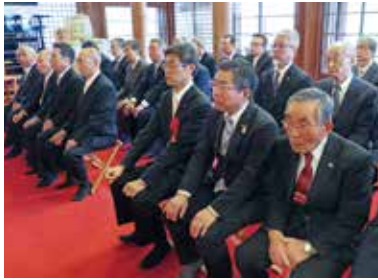
祈年祭(大祭)

二月十七日午前十時より、五穀豊穡と産業発展、国家の安泰を祈願する「祈年祭」を斎行しました。氏子崇敬者はじめ農業関係者が参列されました。祭典では神楽「浦安の舞」の奉奏に続き、井波松風会(斎藤彰岳会長)会員が吟詠を奉納しました。



吟詠奉納

奉納曲
「新年山を望む」明治天皇御製
「令和」万葉集



天長節祭



二月二十三日午前十時より、令和の御代初めての「天長節祭」を斎行しました。

現在では、「天皇誕生日」と呼ばれていますが、本来は、「天長節」と呼ばれ、昭和初期には、四方節(元旦)・紀元節(現「建国記念日」)・明治節(明治天皇のお誕生日・現「文化の日」)と並んで四大節と呼ばれました。

全国の神社では、現在でも「天長節」と呼ばれ、天皇陛下のお誕生日を奉祝しています。

鎮火祭

三月八日午前十時より「鎮火祭」を斎行して、火の恵みに感謝し、一年の無火災を祈りました。

本殿にて、祝詞奏上、神楽「剣の舞」の奉奏に続き、「鎮火神事」を行いました。故事に基づき、篝火に宮司と南砺市消防団井波方面団高瀬分団の笠田武司分団長が瓢(ひさご)の「水」を、続いて橋場秀裕副分団長が「土(砂)」を、次に久恵欣紀部長が「川菜」を用いて篝火の火を鎮め、滞りなく行事を執り納めました。



初詣旅行

一月二十日より、氏子崇敬者の皆様と二泊三日の日程で、初詣旅行に出かけました。大阪天満宮、湊川神社を正式参拝、坐摩神社、生田神社を自由参拝しました。各社において心温まるご対応を頂き、有意義な旅行となりました。

天候にも恵まれた「新年初笑いの旅」は、天満天神繁昌亭で落語を、なんばグランド花月で、漫才や吉本新喜劇を観劇し、笑顔に満ちた楽しい旅行となりました。



天満天神繁昌亭



於 湊川神社



於 大阪天満宮

令和二年正月 初詣句会

一月五日、恒例の福野糸瓜句会（梅島くにを会長）の「初詣句会」が開催されました。奉納句は次の通りです。

源は神在す山初手水

虚子といふ師をお手本に去年今年

束の間を宮司談笑雪晴間

松ヶ枝の影伸びていし初日かな

なでうさぎ膝撫で回し老の春

束髪に熨斗の飾りや初神楽

老幹の白梅剪りて壺に満つ

雪無きを嬉し嬉しと句会場

逃げ惑ふ蜘蛛を追ひつつ煤払ひ

来る娘らに花びら餅を買ひて待つ

雑煮餅老に小ぶりの清し汁

花鉢を売る生徒らや歳の市

年の市福野餅の小物買ふ

産土へ先づ真っすぐに初詣

湯気立てて参拝客を待つ露店

鷗尾高く立山へ飛ぶ初鴨

梅島くにを

田上真知子

名村 五月

宇野 恭子

安田 富子

富田みゆき

大浦 昌美

澤田 敦子

中川 英堂

有川 寛

窪田 悦子

上古 眞澄

高原 禮子

城宝寿美礼

有川 公子

五十嵐千恵子

以上十六名

敬称略



祭典・行事のご案内

なつもうで

夏詣 開催

期間 七月一日(水)～七日(火)

「夏詣」とは…

新しい習慣として、全国の神社で始められている行事です。

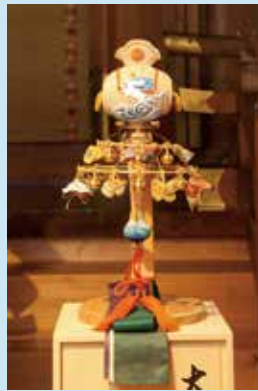
日本人は、「師走の大祓」で、罪穢を祓い清めてから、一年の平穏を祈る初詣に出かけます。対して「夏越の大祓」後には、残る半年の平穏を祈る「初詣」のような習慣はこれまでありませんでした。そこで、新年同様に半年が無事過ぎたことに感謝し、残る半年の平穏を願う風習を「夏詣」と名付けて提唱しています。

期間中、授与所では、「夏詣」の御朱印とお守りをお頒ち致します。

また、御祈禱で大国様の福をいたたく「宝願小槌」による「小槌の儀」をご奉仕致します。どうぞお参り下さい。



○夏詣期間中の御朱印



○宝願小槌



なごし おおはらえ

夏越の大祓

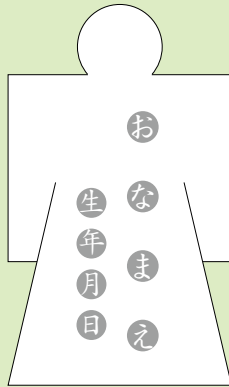
日時 六月三十日(火) 午後三時より

水無月の夏越の祓する人は千歳の命のふというなり

『拾遺和歌集』(よみ人知らず)

「大祓」は、知らず知らずのうちに犯した罪穢つみけがれを半年に一度祓い落として、元の清らかな心身に戻り、続く半年も無病息災で過ごせるよう願う神事です。

拝殿にて「大祓詞」を奉唱し、各人が「人形」ひとがたに罪穢を移し、特に「夏越の大祓」は前庭に設けられた「茅の輪」ちわをくぐり、心身を清浄にもどします。これからの暑い夏を健康に乗り切るための大切な神事です。どうぞご参列下さい。



※ご希望の方には案内状と人形を送付いたしますので、社務所までご連絡下さい。



茅の輪くぐり

七夕祭・技芸上達祈願祭

日時 七月七日(火) 午後三時より

夏詣最終日となる七月七日に織姫さまの裁縫上手にあやかり、習い事が上達するよう祈願する「七夕祭・技芸上達祈願祭」を行います。ご家族お揃いで是非お参り下さい。なお、六月十三日(土)から七月七日(火)まで御本殿前に短冊が用意してありますので、自由に願い事を書いてお納め下さい。



第二十一回 人形感謝祭

にんぎょう かんしゃ さい

日時 七月二十五日(土) 午前十時より

古くなった人形に感謝し、神社へ納めるお祭り「人形感謝祭」を行います。納められた人形はお祓いの後、お焚き上げしてお別れします。子供の成長とともに使わなくなったり、壊れたりした「人形」や「ぬいぐるみ」をご持参下さい。



受付

午前九時から午前十時まで (当日のみ受付)

祈願料

三千円からご志納願います (手提げ袋一袋程度)。※人形の数が多い場合や大きな人形については、事前に社務所へお問い合わせ下さい。

第二十回 人形展「一期一会」

七月二十四日(金)～二十六日(日)開催

「午前十時～午後四時」

県内外の作家による創作人形や、多種多様な「いけばな」が会場を彩る、「人形展」二期一会「」が本年も開催されます。洗練された作品をご覧いただき、人形といけばなの「二期一会」をお楽しみ下さい。



会場…当神社参集殿
入場料…無料 (平成殿)

※尚、本年は第二十回の記念展となりますので特別企画を予定しております。乞うご期待!!

英霊のご事績(寺西政雄命)

権柄宜 魚岸一弥記

前回(社報六十三号)、寺西政雄命の記事を掲載しましたが、寺西家に残されていた書簡・手記等を閲覧させて頂く機会を得ましたので、追記してご紹介致します。

寺西政雄命は、富山県南砺市高瀬のご出身で

徴兵後、満洲国で軍務に当たられ、

昭和十二年(一九三七)二月に帰郷

されました。満洲

のハルビンから故郷

に宛てた手紙には、

市内を観光した際、

その発展ぶりに驚いた事や、

故郷へのお土産に

悩む様子が記されています。

昭和十二年七月、支那事変勃発により、第九師団(富山・石川・福井の兵士で構成される)の上海への増派に伴い出征されました。

戦地は、開戦前から堅固な陣地が構築されていた上、良好な道路も少なく、水壕(ク



昭和十二年二月、除隊の時に贈られた
寄せ書き日章旗

リーク)が縦横に連なる為、軍隊の行動が困難という地形でした。現地の日本軍は、堅固な陣地と兵数の劣勢により、苦戦を強いられており、第九・第十三・第一百師団等が派遣されることになりました。

二十日の知人宛の書簡には、「敵砲弾は耳をかすみ就寝する事十分ならず。日も最早十五日余り相成りました。其間激戦は数回、三度食すら充分ならず」と過酷な戦場の様子が記されています。

九月末、上海に上陸すると、翌月四日には、第三・第九師団の戦闘が進捗しました。その日の手記には、「今晚弾雨が猛烈」、十日の手記には、「其日は朝から夜明に至るまでクレイク(原文ママ)に体をぬらす。下は水にぬれ上からは雨が降り、此の寒は一生忘れる事は出来ない」と第一線の様子が記されています。十五日には、所属する部隊の中隊長以下幹部はほとんど戦死され、寺西政雄命が、第一小隊長代理となりました。

二十三日、銃弾により負傷、同部隊の大窪伍長により治療が試みられましたが戦況が膠着状態となり治療が難しいと悟ると「大窪君、大丈夫だ。俺の事を心配せず、味方を指揮して進んで呉れ」と伝えられ、戦死されました。後日、親交のあった氏川軍曹からご遺族へ宛てられた書簡にも「部下と共に実に勇敢なる第一線勇士として十二分の活躍せられ完全に任務を遂行せられし事誠に武人の亀鑑」と称されるご最期でした。

明朝、大窪伍長によつて、近隣の部落の傍に「故寺西伍長戦死之地」と墓標が立てられ、葬られました。最後の様子は、友人でもあった大窪伍長より寺西家へと伝えられたものです。

ご案内

はがた
歯固め石

当神社では、お食い初めの石「歯固め石」を授与しております。ご希望の方は社務所へお声がけ下さい。

※「歯固めの石」とは

生後百日頃は、赤ちゃんの歯が生え始める時期です。お食い初めの行事では、赤ちゃんに石のように丈夫な歯が生える事を願う「歯固めの儀」を行います。この

「歯固めの儀」で使われる石の事を、「歯固め石」と言います。



戌の日(安産祈願)

4月 1・13・25日
5月 7・19・31日
6月 12・24日
7月 6・18・30日
8月 11・23日
9月 4・16・28日

腹帯のお祓いも行いますので
ご持参下さい。



御社殿屋根修復

（令和元年十二月〜令和二年二月二十九日）敬称略

特別奉賛金奉納者

五十万円 高尾 克重
西田 吉輝
三十五万円 藤井 崇教
三十万円 岩倉 和弘
十一万円 福光会代表
中田 十三
十万円 松田 義則
（株）長田組
五万円 中田 武
島崎 啓文
藤井 政子
野守 秀一
小西 勝則
松平 信隆
孫崎 紀子
三万円 仲村 歯科医院
新井 外弘
中嶋 綾子
中嶋 由美子
アイ・リンクグループ
二万円 海老 雄二

銅版奉納者

高田 実	是久 淳	石渡 高士	東田 芳樹
高田 直美	篠山 徹	（有）アグリおがわ	高橋 太
大岩 龍也	山田 省子	堀 充	森田 浩章
堀池 良一	丸田工業（株）	今堀 志朗	高井 勇希
堀池 さつき	梅野 牧子	海老 雄二	谷井 珠恵
森川 淳夫	渡邊 美鈴	金戸 弘恵	高井 勇希
岡田 春雄	高井 勇希	渡辺 外好	山田 省子
太田 奈緒美	橋本 永都	柴田 貴也	西田 英明
島 宏和	高井 勇希	岡部 孝雄	小田 正治
岡島 舞子	宮本 時美	小泉 由和	高井 勇希
中島 正範	望月 佑里子	齊藤 修	山本 卓
常本 弘美	高井 勇希	坂倉 峯子	高井 勇希
桑崎 真	（株）Leonty	坂倉 大士	津川 清信
桑崎 麻里代	藤沢 有一	高井 勇希	山田 省子
小泉 由和	高井 靖之	井野 康治	横井 信也
井野 康治	西田 久男	野崎 詩織	中田 正夫
中川 敏雄	板橋 優	新井 外弘	中田 文枝
得永 幸子	高松 幸子	佐々木 光	高井 勇希
中島 経佳	中村 智子	佐々木 智秋	布村 政則
伊東 洋行	渡辺 義明	大橋 毅彦	中川 悟
堀 美保子	山崎 文雄	山田 征雄	高井 勇希
長谷川 規子	尾塩 裕司	高井 勇希	
久保 貴美			
松本 健一			
井波 久明			
中川 遼			
中川 悟			
尾塩 裕司			

御朱印帳

本年より当神社特製の御朱印帳をお頒ちしております。

この御朱印帳の表面の茶色は大地、青は水、緑は森、白は空を表し、国土・自然との調和を大切にする神道を表現しています。また、模様の籠目紋は、古くから魔除けとして用いられてきました。

この御朱印帳を手に全国津々浦々の神社を巡られ、その地の神様を感じ、御朱印をお受け下さい。

御朱印・袋・葉

御本社ならびに末社「功霊殿」の御朱印と、御朱印帳袋、葉を授与しています。袋と葉は、富山県南砺市福光で生産されていた福光麻布を用いています。



※功霊殿 当神社の末社で、南砺市・砺波市・小矢部市・高岡市の一部の英霊六四〇〇余柱をお祀りする

※御朱印 三〇〇円
御朱印帳 一、五〇〇円
御朱印帳袋 一、五〇〇円
葉 三〇〇円

※奉賛金・銅板奉納は随時受付ておりますので、ご奉納をお願い致します。

奉納

○大型冷蔵庫

有限会社ソムリエ・ヨシオカ
吉岡 嘉憲 殿



○木彫彫刻

川原 和夫 殿



○祈禱用三方

前高瀬区長

中嶋 治長 殿



○受付用備品・奉納台

(奉納者作)

氏子

大和 秀夫 殿



○授与品台(奉納者作)

南部建具店

南部 進 殿



○舞扇

元巫女

中橋ゆきな 殿
木下 咲夢 殿



辞令

中橋ゆきな

木下 咲夢

願いにより巫女を免ずる

令和二年三月三十一日

五反日乃

米田 亜依

畠山 愛梨

見習巫女を命ずる

令和二年四月一日

社報にてご案内しております行事
につきまして、新型コロナウイルス
ウィルス感染症の影響で変更する
場合がございます。
※祭典は通常通り肅行致します。

各種お問い合わせにつきましては、
社務所へご連絡下さい。
(〇七六三) 八二〇九三三

社報バックナンバー

当神社ホームページで
ご覧頂けます。

【表紙写真】 境内の桜



越中一宮 高瀬神社ブライダル

縁結びの神様のもとで幸せのお手伝いをしてみませんか
やさしいあなたの力を必要としています



土・日・祝日の空いた曜日だけ! 事前にシフトを決めて働きましょう!!
未経験者歓迎! 丁寧に教えます!

仕事内容 結婚式・披露宴でのサービス業をご担当いただきます
勤務時間 土・日・祝日/9:00~18:00の間(披露宴時間による)
勤務地 南砺市高瀬291 高瀬神社内
給与 時給1,000円以上 研修30hは時給900円
待遇 制服貸与 食事手当500円

月単位のシフト制なのであなたの都合に合わせて働けます

高瀬神社 ブライダル事業部
Tel (0763) 82-1131 中井 面接随意・先ずはお電話を

縁結びの神様に誓う
伝統の結婚式を挙げていただく、
一生に一度の日だからこそ、
一日一組のカップルの為だけに、
このバンケットは生まれました。



一日一組限定の

おもてなしバンケットホール

このバンケットホールでのご結婚披露宴のご予約を承っております。
お気軽にお問い合わせ、ご相談いただきますよう、お待ち申し上げます。

只今
秋・冬の婚礼
ご予約
受付中

あなたの人生に、神社がある。越中一宮 高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社 🔍 検索